

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 この度、下記検査項目を新たに受託開始いたしますので、
 ご利用いただきたくご案内いたします。
 何卒、ご高承賜りますようお願い申し上げます。

敬白

記

- 実施日 : 平成 27年 9月 24日 (木) ご依頼分より
- 新規実施項目 : I g G 2
- 受託要項 :

項目 コード	検査項目 (グループコード)	検体 必要量	容器 保存方法	検査方法	基準値 (単位)	所要 日数	実施料 判断料	備考
1483	IgG2 (4999)	血清 0.4mL	A1-1 冷蔵	ネフェロメトリー法	208~754 (mg/dL)	5~7日	388点 免疫	※

測定施設: LSIメディエンス(*1)

※原発性免疫不全等を疑う場合に算定する。なお、本検査を算定するに当たっては、その理由及び医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

▼臨床的意義

ヒト免疫グロブリンは5種類のクラス、IgG、IgM、IgA、IgD、IgEで構成されています。その中のIgGは、ヒト14番染色体にあるH鎖定常領域遺伝子群(γ1, γ2, γ3, γ4)の違いからIgG1、IgG2、IgG3、IgG4の4つのサブクラスに分類されています。IgGサブクラスに関連する疾患はいくつか知られていますが、易感染性を示す病態としてIgGサブクラス欠乏症が知られています。特にIgG2は肺炎球菌やインフルエンザ菌のような莢膜多糖体をもつ細菌に対する防御抗体であるため、IgG2欠乏症においては、それらに対する抗体の産生不全や産生遅延により反復性の中耳炎や気管支炎、及び肺炎を発症することが報告されています。その他にも副鼻腔炎、難治性下痢症、髄膜炎、敗血症、慢性肺疾患を伴うことも報告されています。

2015年2月には日本血液製剤機構の免疫グロブリン製剤「献血ヴェノグロブリン®IH5%静注」の効能・効果に「血清IgG2値の低下を伴う、肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎、急性気管支炎又は肺炎の発症抑制(ワクチン接種による予防及び他の適切な治療を行っても十分な効果が得られず、発症を繰り返す場合に限る)」が追加され、免疫グロブリン補充療法の条件の一つに、「血清IgG2値80mg/dL未満が継続していること」が求められています。

IgG2検査はIgG2値の低下を伴う肺炎球菌またはインフルエンザ菌を起炎菌とした急性中耳炎、急性気管支炎または肺炎の発症抑制のための診断・治療に有用であり、免疫グロブリン製剤の投与時に必要な検査となります。

▼検査方法参考文献

- 史 宇輝, 他: 医学と薬学 48(1):115~120, 2002. (検査方法)
 崎山 幸雄, 他: 日本臨床免疫学会会誌 21(2):70~79, 1998. (臨床的意義)
 金兼 弘和, 他: 日本小児科学会雑誌 109(1):16~21, 2005. (臨床的意義)